

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	安息香酸
SDS コード	:	A4-11
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分に該当しない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		区分に該当しない	
皮膚腐食性 / 刺激性		分類できない	
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性		区分 1	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		区分 2	

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (上気道)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)



GHS05



GHS08

- 注意喚起語 (GHS JP) : 危険
- 危険有害性 (GHS JP) : 重篤な眼の損傷 (H318)
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (上気道) (H373)
 水生生物に有害 (H402)

注意書き (GHS JP)

- 安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
 環境への放出を避けること。(P273)
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
- 応急措置 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
 て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 (P308+P313)
 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314)
- 保管 : 施錠して保管すること。(P405)
- 廃棄 : 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。
 (P501)

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
- 別名 : ベンゼンカルボン酸

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
安息香酸	≥99%	C6H5COOH	(3)-1397	既存化学物質	65-85-0

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 直ちに医師に診断/手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
 多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
 直ちに医師に診断/手当てを受けること。

- 眼に入った場合 : 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
直ちに医師に診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをすること。
作業所の十分な換気を確保する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

- 安全な容器包装材料 : 気密容器。

- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。

- 保管温度 : 冷暗所保管

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
手の保護具 : 不浸透性保護手袋
呼吸用保護具 : 防塵マスク

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体
外観 : 結晶
色 : 白色
臭い : わずかな特異臭
pH : 水溶液は弱酸性である
融点 : 122 ° C (100°Cで昇華し始める)
凝固点 : データなし
沸点 : 249 ° C
引火点 : 121 ° C (セタ密閉式)
自然発火点 : 570 ° C
分解温度 : データなし
可燃性 : データなし
蒸気圧 : 133 Pa (96°C)
相対密度 : データなし
密度 : 1.26 g/cm³ (20°C)
相対ガス密度 : データなし
溶解度 : エタノールに易溶。ジエチルエーテルに易溶。
水: 0.29 g/100ml (20°C)
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow) : 1.87
爆発限界 (vol %) : データなし
動粘性率 : データなし
粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし
化学的安定性 : 通常の実験条件では安定である。吸湿性がある。
危険有害反応可能性 : 酸化剤と反応する。粉末又は顆粒状は空気と混合すると粉塵爆発の可能性が
ある。
避けるべき条件 : 日光、湿気、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。酸化剤との接触。
混触危険物質 : 酸化剤
危険有害な分解生成物 : フェノール、ベンゼン

11. 有害性情報

安息香酸	
急性毒性(経口)	ラットの LD50 値として、1,700 mg/kg(環境省リスク評価第7巻: 暫定的有害性評価シート(2009)、SIDS(2004))、2,530 mg/kg、2,565 mg/kg(SIDS(2004))、2,700mg/kg (JECFA FAS5(1974))、3,040 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告がある。該当数の多い区分外とした。
急性毒性(経皮)	ウサギの LD50 値として、> 2,000 mg/kg、> 5,000 mg/kg(SIDS(2004))、> 10,000 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告に基づき、区分外とした。

安息香酸	
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラットの 4 時吸入ばく露における LC50 値 > 12.2 mg/L (SIDS (2004)) に基づき区分外とした。なお、LC50 値は飽和蒸気圧濃度 (0.005 mg/L) 以上であり、試験は粉じんで行われたとの記載に基づき、mg/L を単位とする基準値を適用した。
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	SIDS (2004) には、テストガイドラインに準拠した試験で「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」と報告されている。一方、エタノール又はクリームに 0.05% 含有する本物質を用いたパッチテストで 614 人中 18 人で刺激性がみられたとする報告やワセリンに 0.5% 含有する本物質を用いたパッチテストで 32 人中 7 人で蕁麻疹がみられたとの報告があるため、分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	SIDS (2004) において、テストガイドラインに準拠した試験で「重度の刺激性」又は「腐食性」と報告されていることから、区分 1 とした。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	SIDS (2004) には、テストガイドラインに準拠した試験で「感受性なしとするデータが多数報告されている。一方、ヒトへの影響としては、ワセリンに 0.5% 含有する本物質を用いたパッチテストで 32 人中 7 人で蕁麻疹がみられたとの報告 (SIDS (2004))、皮膚科の患者 2,045 人に、5% 濃度の本物質 Na 塩でパッチテストを行った結果、陽性反応のみられたのは 5 人 (0.2%) のみであったとする報告や、化粧品に対してアレルギーや刺激症状があると考えられる患者 5,202 人に本物質でパッチテストを行った結果、34 人 (0.7%) で陽性反応がみられたとする報告など、感受性ありとする報告が多数がある (環境省リスク評価第 7 巻: 暫定的有害性評価シート (2009))。しかし、SIDS (2004) では、健康なヒトでは感受性は起こり難いと結論していることから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、本物質に関する in vivo データはなく、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である (SIDS (2004)、CICAD 26 (2000)、JECFA FAS 48 (2002))。ただし、SIDS (2004) では、本物質及びその関連物質である安息香酸ナトリウム、安息香酸カリウム、ベンジルアルコールを含め、突然変異性及び染色体異常誘発性はないと記載している。
発がん性	本物質は、EPA でグループ D (IRIS (1991)) のため、分類できないとした。
生殖毒性	ラットを用いた経口経路 (混餌) での 4 世代生殖毒性試験において生殖・発生毒性はみられていない (SIDS (2004)、CICAD 26 (2000)、環境省リスク評価第 7 巻: 暫定的有害性評価シート (2009)、HSDB (Access on September 2013))。また、発生毒性に関しては、ラットを用いた経口経路 (強制) での発生毒性試験において胚吸収の増加がみられた (HSDB (Access on September 2013)) との報告と発生毒性はみられていない (SIDS (2004)、CICAD 26 (2000)、環境省リスク評価第 7 巻: 暫定的有害性評価シート (2009)) との報告、ハムスターを用いた経口経路 (強制) での発生毒性試験において胚吸収の増加と奇形の増加がみられている (HSDB (Access on September 2013)) との報告がある。発生毒性がみられたとの報告がリスト 2 の情報源からのみであることから、区分 2 とした。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データ不足のため分類できない。なお、ラットの経口投与においてガイダンス区分 2 の用量 (1,984 mg/kg) で体重増加に影響は見られなかったとの記載がある (SIDS (2004))。CICAD 26 (2000) にはラットの経口経路 (投与量不明) において下痢、筋力低下、振戦、自発運動の低下、衰弱がみられたとの記載がある。またラットの吸入ばく露 (粉じん) においてはガイダンスの範囲外の濃度 (12.2 mg/L) において一時的な自発運動の亢進や流涎がみられたが、後に回復した (SIDS (2004)) との記載がある。ウサギの経皮ばく露においては LD50 > 2,000 mg/kg とあるが明確な毒性症状について記載がない。以上の結果から、区分の判断に足る所見がないことからデータ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	ラットの経口ばく露及びウサギの経皮ばく露では区分 2 のガイダンス値を上回る用量においても毒性所見は見られていない (SIDS (2004)、CICAD 26 (2000)、IUCLID (2000))。一方、ラットに本物質エアロゾルを 4 週間吸入ばく露した試験では、区分 2 のガイダンス値の範囲内 (ガイダンス値換算濃度: 0.078 mg/L) の濃度で上気道の炎症、腎臓重量の減少が見られている (SIDS (2004)、CICAD 26 (2000)、IUCLID (2000)、HSDB (Access on October 2013)) が、腎臓は病理組織変化を伴っておらず、標的臓器とするには不十分であると判断した。以上の結果から、区分 2 (上気道) とした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

安息香酸	
水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 44.6 mg/L(SIDS, 2004)から区分3とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(2週間でのBOD分解度=85%(既存点検, 1979))、急性毒性は区分3であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogP=1.88(SIDS, 2004))ことから、区分外とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号(IMDG) : 非該当
正式品名(IMDG) : 非該当
容器等級(IMDG) : 非該当
輸送危険物分類(IMDG) : 非該当

航空輸送(IATA)

- 国連番号(IATA) : 非該当
正式品名(IATA) : 非該当
容器等級(IATA) : 非該当
輸送危険物分類(IATA) : 非該当

海洋汚染物質

: 非該当

国内規制

- 海上規制情報 : 非該当
航空規制情報 : 非該当

特別な輸送上の注意

: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

- 労働安全衛生法 : 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧)
【令和7年4月1日施行】
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条)
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2)
安息香酸
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 消防法 : 非該当

外国為替及び外国貿易法 : 輸出貿易管理令別表第1の16の項
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

参考文献 : 17423 の化学商品(化学工業日報社)
国際化学物質安全性カード(ICSC)
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)
ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)

その他の情報 : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。